

平成24年度第2回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日 時

平成25年1月17日（木） 午前10時～12時

2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター8階 会議室「千鳥・海鷗」

3 出席者

（委員） 神野委員、早川委員、石丸委員、瀬崎委員、田代委員、
廣崎委員、古川委員、藤田委員、蓑田委員

（事務局）生活文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興課長補佐、
文化振興班主査、主任主事2名、主事1名

4 議 題

（1）地域主体の文化支援について

（2）その他

5 議事の概要

（1）地域主体の文化支援について

第1回会議での意見をふまえ、本市文化支援のあり方について、各委員の立場や経験に基づき意見交換を行った。

（2）その他

議題の趣旨を説明し、新しい千葉文化の創造について、意見交換を行った。

6 会議経過

【神野委員長】

千葉市文化芸術振興会議は、千葉市議会でも高い関心を持っていただいております、一層議論をするようにという叱咤激励をいただいているそうです。日本は、色々な変化が必要な転換期に来ています。私たち市民が千葉市で生活していく中で、文化をどのように主体となって育てていきたいのかが非常に大きな課題であります。それがベースになって、地域のコミュニティの豊かさにつながり、束になって、日本の豊かさになっていくのだと思います。この会議においても、非常に重要な役割が課せられていると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。

まず、議題1「地域主体の文化支援について」です。

こちらは、第1回会議から継続して議題として検討しております。審議に先立ちまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

< 事務局説明 >

【神野委員長】

ありがとうございました。

ただ今、前回の議論の内容を整理していただきました。委員皆様の方で、それぞれの地域や仕事の中で、見えてきたものや思いつくものがあったのではないかと思います。そういったご意見や情報をいただき、議論を進めていきたいと思っております。何か事例がありましたらご発言いただければと思います。

【石丸課長】

千葉市文化振興財団でも、「地域主体の文化支援」のネットワーク作りに取り組んでいます。その取り組みのひとつとして、「アーツステーションちば」についてご紹介させていただきます。

平成22年度より、文化振興財団内に、アーツステーションちばを設置し、千葉市の文化情報の収集・発信と多様な文化活動の育成・支援、市民と芸術家等との交流を図っています。

アーツステーションちばの主な機能3つをご紹介します。

第一に、文化芸術に関する情報の収集と発信です。チラシなどの紙媒体やホームページやツイッター、フェイスブックなど、様々な文化情報を収集・発信し、イベントを開催する側と、参加を希望する市民との橋渡しを担っています。

第二に、文化芸術活動の育成・支援です。千葉市ゆかりの芸術家の情報をホームページ上で公開し、活躍の機会を提供する、アーティストバンクという取り組みを実施しています。これにより、イベントを開催する側と芸術家との橋渡しをし、市民に芸術鑑賞の機会を提供しています。また、イベントの企画・制作・運営についての相談役、アートプロデューサーと、舞台演出や舞台プランなどの相談役、ステージプロデューサーを置き、イベントを実施したいという市民のニーズに応えています。

第三に、文化芸術を通じた市民と芸術家との交流です。アーティストバンク登録の芸術家が出演し、

市民やボランティアが企画・運営などに積極的に参加できるイベントを創り上げ、市民と芸術家の交流を深めています。事例では、昨年の市民文化祭というイベントで、ボランティアの方々が集まり、大変な盛り上がりを見せました。

アーツステーションちばの課題としては、アーツステーションやアーティストバンクについてよりたくさんの方々に知っていただくためにどのように広報をすればよいか、があります。運営はしているものの、なかなか市民の方々が皆知っているというところまではいかないので、千葉市民なら誰でも知っているという状態にするには、どのように広報をすればよいか最大の課題となっています。また、誰でも気軽に訪れやすい場所とするにはどうしたらよいか、という課題もあります。現在は千葉市文化センター4階の隅の方にあり、なかなか足を踏み入れやすい場所とは言い難く、やはり駅前など、ずっと入れるような場所があれば、更に広報にも役立つのではないかと考えています。最後には、市民ボランティアの育成・活用をどのように進めていくか、などが課題としてあります。やはり広報が一番の課題として挙がってきますので、本日振興会議でいただいたご意見を参考に、アーツステーションちばの更なる充実を図っていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

【神野委員長】

ありがとうございました。アーツステーションちばの取り組みを紹介していただきました。

【藤田委員】

私は若葉区に住んでいますが、四街道市に近いので、四街道市の文化施設で開催されるイベントにもよく行きます。私が応援している千葉市のある団体の講演会のチラシを、四街道市の文化施設にも置いてもらおうと思ったところ、千葉市のチラシは置けないと言われました。普段、四街道市の図書館等を利用させてもらっており、また隣の市でもあるので、千葉市のイベントのチラシも置くことができればと思いましたが、しかし四街道市と千葉県は置けるが、他市のチラシは置けないと言われました。自治体間の交流も大事と思いますが、この状態には問題があると思いました。

【神野委員長】

ありがとうございました。

藤田委員からご指摘があった、広域的な情報交換の仕組みが自治体間で取れないのかという点についてご意見をうかがった後に、アーツステーションちばそのものを議論するというよりは、そこで課題に挙げられているものを、少し一般化した課題として議論するという方法で進めたいと思います。

広域的な、自治体間を超えて情報交換する仕組みというのは、現在あるのでしょうか。

【事務局】

市の広報ツールというと、市政だよりがありますが、情報が多すぎて、市の各所管課の情報が載らない状態です。そこにさらに他市の情報を載せるのは現実的に不可能です。また、テレビやラジオは、高価で、時間も限られており、やはり市の情報が中心となります。他市と連携した情報や、施設どうしが連携する企画であれば広報ができますが、施設間が競合関係にあるので、難しい面もあります。千葉市美術館で、4月から、仏像半島という企画展をやりますが、県内の仏像を一堂に集める企画ですので、

これから各市に広報の協力依頼をしようと考えています。千葉市としても、施設ごと、イベントごとに連携することを、今後他市としていかななくてはならないと考えております。

【神野委員長】

市政だよりの紙面などは、物理的な課題もあるということでしたが、一方で千葉市美術館では、展覧会の内容により、関係のあるところと自治体を超えて連携する、ということを実行前のようにされています。内容によってすんなりいかない、あるいは連携に慣れていないセクションもあるかもしれませんが、自治体の境界線を越えたからといって、全く意味がなくなってしまうわけではないと思います。ある地域のまとまりとして文化的な協力関係を築くということも重要に思いますので、検討していただければと思います。

【瀬崎委員】

私も芸術活動・音楽活動をするにあたって、宣伝をどのようにしたら皆様にお伝えできるかというのを日々考えています。駅の近くなどにある掲示板については、千葉県または千葉市の文化振興財団の主催でないとは貼ってはいけないという規制があり、例えば、自主企画のコンサートや、個々で会場の方とやり取りをしたもの、地元の方が企画してくださった演奏会などは、公共機関を通しては宣伝できないというところに、壁を感じてしまい、やりにくさ、活動の広がりの難しさを感じてしまいます。

【神野委員長】

目的をどこに絞るか、優先順位の話だと思います。例えば、千葉市芸術文化新人賞受賞者など、千葉市に縁のある演奏家がコンサートを企画した時に、その主催者は、必ずしも千葉市ではないということが考えられます。そういった場合に、千葉市が寛容な意識をもって、地域の文化の発信に非常に重要だということをもって広報協力をするのも、文化支援としては結構重要だと思います。市主催が中心になるということも分かりますが、地域の芸術支援の解釈の幅をどのように広げられるのか、ということも検討していただければと思います。

【早川副委員長】

市の掲示板に、情報を無条件で出してしまうと、裏でお金儲けや商売をするということもあり得ますので、何らかの資格審査が必要となり、無条件で誰でもよいというわけにはいかないと思います。市でもそういったことを危惧して、規制をしているのだと思います。一方、市が必ず関わっていなければいけないという対応がされているのであれば、出来るだけ改めていただきたいと思います。

先程美術館の話がありましたが、昨年度、通信社が主催で、県内の美術館長の集まりをやり、それが今年も続いています。千葉市美術館や千葉県立美術館、ホキ美術館など、8～9館が集まっており、美術館どうしの交流が行われていますので、ぜひ、こういった交流を進めていただきたい。

【事務局】

千葉市では、「みなさんの掲示板」を、中央公園など屋外に設置しています。スペースがあれば、市民の活動について掲示することができます。

【廣崎委員】

私はNPO活動をしており、広報には非常に苦労しており、色々な広報活動をしています。自分たちの事業については千葉市の後援をいただいています。千葉市や文化振興財団の後援をいただくと、他の市でも置いていただけますし、生涯学習施設であれば、全国的に置いて下さるところもあります。「みなさんの掲示板」は、月に2回入れ替えがあり、スペースが空いていれば自分で貼ることができ、2週間ほど掲示してもらえます。

反対に、情報提供をいただく立場にもなったことがあり、とても神経を使いました。このチラシは本当に営利目的ではないか、など、そういう立場も分かりますので、難しい問題だと思います。

活動する立場に立てば、やはり広報は柔軟な態度を取っていただきたいと思います。

【神野委員長】

現在も色々な窓口で広報支援をしているようなので、後は、どこに聞けばいいのかということを知りやすくする、そういった情報を必要としている人に、方法や仕組みが分かるよう、文化発信のための広報や分かりやすい説明があれば良いのではと思います。ありがとうございました。

それでは、先ほどのアーツステーションちばの中で、訪問しやすい場づくりについても課題として挙がっているという話がありました。確かに、文化振興財団の事務所を訪れるのは、相当敷居が高いと思います。最初からとても強い意志や目的を持っていなければ、恐らく行かないだろうと思います。もう少し手前の、こういうことに協力してもらえないか、アイデアをもらえないかという気軽な関係性も、財団としては作っていききたいという思いがあるということでしたが、ご意見があればお願いしたいと思います。

【古川委員】

ひとつの考え方として、新聞社として、このアーツステーションちばを記事化できるかということを経準に考えてみると、このチラシ1枚では、どこから手を付けて記事にしていけばいいのかが見えにくいように思います。具体的に取材させてもらう時に何をするかと考えてみると、アーティストバンクに登録しているアーティストの方を、何人か順番に紹介していくということが考えられます。財団の方で、インタビューする場を設けていただくなど、対応していただけると、記事にできるのではと思います。それを紙面に反映させて、紙面に載っているアーティストの方を招きたいイベントがあれば、その橋渡しをしますという告知をするというのも一つの方法かと思います。このチラシだけで、今こういう活動をしていますという、一般の方が読んでわかりやすい記事にできるかは、正直疑問がありますので、そういう情報を逆にマスコミに発信し、取り上げてくださいという依頼をしていただければ、アーツステーションちばという名前を伝えることは可能だと思います。

【神野委員長】

ありがとうございます。記事にできるかどうかという面白い視点からのご意見で、前回の会議でも出たストーリー化がされていて、見る人間が何ができるのかということを読み取れるかどうか重要なのではないかと、内容はしっかりあるはずなので、それをしっかり伝える形にした方がいいのではというご

意見でした。

私個人の気になったところですが、記事にするとき、このアーティストは、例えばヴァイオリン奏者で、こういう教育を受けてきて、こういう賞を取ってきてというような情報は、一般的にアーティストに関する情報として伝えられて来ましたが、技能ではなく、こういうことができますとか、ある種のサービスと言ったら語弊があるかもしれませんが、提供できること、例えば子どもたちとこういうことをやってきて、こういうことができました、という情報も一緒にあれば、財団の方からも情報を発信しやすいのではと思います。この人すごく面白いことをやってるよね、こういう人たちが最近増えてきているので、束にして、マスコミに投げたら、取り上げてもらえるネタになるのでは、ということができるのではと思います。登録するときの情報の蓄積の仕方を工夫すると、財団の方でも、次に展開する時の絵を描きやすくなるかもしれないと思います。

【石丸委員】

現在も、どういう賞を取ったかだけではなくて、千葉市ではこういうコンサートをやりました、子どもたちとこういうことをやりましたと、PRする欄も作っており、記入される方もいらっしゃいます。ただし、ホームページ上での掲載になってしまいますので、確かにこのチラシだけだと何やっているのかわからないというのはおっしゃる通りで、チラシをきっかけにホームページも見ていただければと思います。更に充実して発信していかななくてはならないと思いますので、ぜひご意見を参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

【早川副委員長】

市政だよりを見ると、非常に細かく情報が載っていますが、必要を感じないとあまり読まないと思います。ですから、先程お話のあったパブリシティについて、もう少し積極的に考えてはどうかと思います。千葉日報さんの方でも、地元紙として、地域の文化を積極的に取り上げて記事化していただきたいと思います。例えば、アーティストバンクがあって、それが公演をやって、それはこういうもので、千葉市の芸術家です、という記事にすれば、市民は無理なく面白く受け入れることができると思うので、ぜひよろしく願います。

【石丸委員】

現在86件の登録がございます。音楽が中心なのですが、中には朗読やピエロなど、色々な方がアーティストとして登録されています。

【早川副委員長】

千葉銀総合研究所で、月刊の立派な冊子が出ていますが、その中でも、色々な人が掲載されています。例えば、新人賞受賞者などが掲載されると、ご家族があちこちで配っているので、パブリシティについてもぜひお考えいただきたい。そうすれば広報料は無料です。新聞の方も、それによって読者が増えれば良いと思います。

【古川委員】

そのとおりです。

【菘田委員】

市政だよりについてですが、最近、新聞を取っていない家庭が多くなっています。新聞を取っていないため、市政だよりも届かず、情報が全く断ち切れてしまいます。「あでるは」も、たくさん印刷しているわりに、全く目に入らないように思います。

以前、幼稚園で働いていた時に、千葉市の幼稚園をよく知ってもらうための冊子を作り、病院など、市民が多数触れる場所に皆で手分けして置いたところ、かなり反響がありました。そこで、病院や銀行などに情報誌を置く場所を作ってもらえば、市民の目に触れるのではと思います。また、回覧板は全部の家に必ず回ってきて、必ず目に触れるので、ぜひ活用してほしいと思います。

それから掲示板についてですが、私の町内にも千葉市の掲示板がありますが、ボロボロになって貼れない状態です。現在、所管課に改善をお願いしていますので、活用できるようになるのではと思います。

また、アーツステーションちばは、きぼーるなど、人がたくさん集まる所に事務所を置けばどうかと思います。

【神野委員長】

ありがとうございます。新聞を各戸が全て取っているという前提で、新聞と一緒に各戸配布するという方針を取っていますが、現実的には経済的な理由など、色々な理由で新聞を取らない家庭も増えています。各家庭に情報を届けるにはどうすればよいか、ということが、今後の新しい課題として出てきているようです。

【事務局】

新聞購読世帯以外の家庭に対しては、ホームページに掲載するほか、紙媒体で手に入る仕組みもあります。

掲示板については、地域によって、管理がきちんとできているところと上手くできていないところがあるかもしれません。

市政だよりや「あでるは」については、公共施設以外にも、金融機関や病院など、人がたくさん集まる所に置き、目に触れるように努めています。

【早川副委員長】

印刷したものをどう配布するかは、前回も議論になり、申し上げたかと思うのですが、目の前に全て情報がくるといような広報を、行政に期待しても無理ですから、市民の側もどういう情報をどこに行けばもらえるかという努力をする必要があると思います。新聞を取っていないから市政だよりは届かない、自分がわかるように情報を持ってこい、というのは市民のわがままだと思います。一方、配布する側も、例えば「あでるは」を美術館の前に置き、美術館の前を通らない人には全然伝わらない、というように、従来通り同じような所に配布し続けるような方法では問題があるので、ぜひ配布方法を考えていただきたいと思います。新聞にはさみ込むのではなく、自治会を通して配布するという方法に全面的に変えてしまうというやり方もあると思います。そうすれば、新聞のはさみ込みにかかるお金が余りま

すから、その分を自治会の方に出せば、全家庭に行き渡るかと思います。色々な広報でどれがいいかは分からないですが、今までやって十分じゃないということは、今までやっていた方法が悪いのですからそれを変えていくという努力が必要なのではと思います。

【神野委員長】

両面あるということですね。市民の側が主体的に情報を自分で取りに行き、自分の中で編集していくことも必要です。一方で、行政の側でも、一度やり方が決まったからと言って、ずっとそれを繰り返していただくだけではなく、より良い、目的にかなった方法を常に検討して行ってほしいというご意見でした。

【田代委員】

アーツステーションちばについてですが、チラシを見ると、何でもやっているように見えて、何をやっているのかわからないように感じます。イベントの企画、構成、演出、広報まで制作に関わる市民の交流と活動の場をつくりましますと書いてありますが、例えば私どもの関係するイベントで、アーツステーションちばはどのように関わってくれるのでしょうか。一番広がる情報の伝わり方は、人から人に伝わりることかと思いますが、実際にここを利用したらこうなった、という話を、利用した方が伝えていくというのが、地味なようで一番効果があるかと思いました。

このチラシを見ると、何でもやってくれそうですが、スタッフはどれくらいいるのか、どこまでやってくれるのか、有料か無料か、ということ疑問として持ちました。

【神野委員長】

受け手の側が、ここまでならお願いできるのでは、こういうことなら相談できるのでは、など、もう少し具体的なイメージが持てるような内容であれば、より関心を持っていただけるのではないかとご提案でした。

ここまで広報の話が中心でしたが、市民がもっと積極的に関わるべきという話も出てきました。この地域主体の文化支援という議題の側面として、アーツステーションちばの中で、何かをやりたいという人たちが、実際の市民との関わりという話に移っていきたいと思います。先ほどの訪れやすい環境作りが課題だということもつながってくるかと思いますが、主体となる市民とどのようにつながっていきけるか、育成できるか、という課題にもつながるかと思いますが、ひとつの提案として、何を相談できるかをもう少しわかりやすく広報するべきということがありました。私の方で、投げかけたいのですが、アーツステーションちばは、専門的な演奏家とお客という関係性が、前提として強くあるのではないかと思います。私は、色々な階層があって、色々な形で演奏している側、聴く側に関われるような環境を作ることが、地域の文化を作り上げるためには、非常に重要になるのではと思います。例えば、取手市の事例ですが、NPOが架空の銀行を運営しています。その銀行に、自分ができることを預けて、それを引き出したい人は、他に自分ができることを預けることによって、それを引き出します。例えば、ヴァイオリンを教えることができる、というのを私が預けて、それを引き出したいと思った人は、子どもに読み聞かせができます、といった、自分が得意なこと、出来ることを預けます。預けるものも、ヴァイオリンがすごく上手くなくても、入門者までなら対応できる、というものでも構いません。レベルの高

いプロフェッショナルな領域ではなくても、芸術文化に関わることを通じて市民が交流し、それによって、プロと聴く人の中間が埋まっていくようなイメージだと思います。さらに、地域の人々の交流も生まれると思います。このような事例は、千葉市ではあまりないのではと感じます。アーツステーションちばも、そのようなものとは違うように感じます。市民の活動というレベルでの支援に関して、ご意見をうかがえればと思います。

【藤田委員】

アーティストバンクについて、出来るだけ敷居を低くしてほしいという希望があります。昨年、千葉市で開催されたベイサイドジャズ千葉を聴かせてもらったのですが、高校生のジャズ演奏部が、千葉市文化センターで、立派な演奏をしていました。このように、人前で演奏したいという方も結構いるのではないかと思います。アーティストバンクも、ただ待っているだけではなく、色々な所を積極的に回って、登録する人を増やすことができれば良いのではと思います。それに関連して、前回は議論に出たストリートミュージシャンについてですが、登録してもらった高校生の中で、少しだけフルートなりトランペットなりが弾ける方で、ホールで演奏するのは難しいが、ちょっとした街かどでなら演奏してみたいという方も結構いるかと思っています。そのような方を、アーティストバンクが主体となって、色々な所に配置して、千葉市内のあちこちで音楽が奏でられているという状態を創れば、あそこに行けば音楽が聴ける、など、文化が豊かな街になっていくのではないかと思います。

【神野委員長】

ありがとうございました。ある種の見える化だと思います。例えばホールを演奏会場とすると、そこに聴きに行く人しか分からない、また、文化振興財団の事務所がビルの中にあり、そこに目的を持っていく人しか分からない、それと似ている関係にあるように感じます。例えば、この演奏を支援しているのは財団だというのが見える仕組みがあると、一般の方にもわかってもらえるように思います。そこには色々なルール作りが必要となるわけですが、これまでとは違った変化も必要かもしれないと思います。

私の方から、もうひとつ、先ほどの見えにくいという話ですが、例えばこのアーツステーションちばが、人が良く行き来する場所で、ガラス張りの、見えるスペースが非常に必要であると感じます。予算の問題もあるかもしれませんが、難しいでしょうか、千葉市は文化施設をたくさん持っていますが、目的を持って行かないといけない、という傾向がとても強いと感じます。そこで、市の方で、こういう場所があるとか、こういう計画があるとか、何かありますか。

【事務局】

アーツステーションちばの出先という話ですが、地区ホールに設置できれば、敷居が下がる、より行きやすくなるということがあると思いますので、小さな規模であっても、考えていく必要があると感じますが、現在のところは具体的な話は出ておりません。

ただ今、見える化ということでお話がありましたが、このようなシステムを作って終わってしまうのが、行政の一番悪いところだと思いますので、実際に活用するために営業に行くことが必要だと感じています。昨年の11月に、稲毛の商店街の有志の方々が立ち上げた祭りがあり、NPOフォーエヴァーさんにも協力していただきました。アーツステーションちばがあるので、どんどん活用してくださいと

紹介するなど、既存の活動の中に営業に行き、入り込んでいき、口コミで広がっていくという方法も良いと感じています。

【神野委員長】

ありがとうございます。そういうことを少しずつやっていくのと同時に、もうひとつ思い切ったことを何かやることも検討していただければと思います。

ここで、今日欠席の関委員の方からメッセージをいただいております。

「(1)の地域主体の文化支援についてなのですが、東京とちがい、365日いつでもどこかで、公演が行なわれているわけではないというのが実情だと思います。」そうですね、千葉もそれほど大きいわけではないので、「カレンダーのようなもので、いつ何が千葉市で行われるかわかるようなホームページなどがあればいいかと思います。」例えば、市政だよりには色々な情報が載っていますが、いつもここに文化について載っている、文化に関心がある人が、そのサイトに行けばすぐ見られるという提案でした。

議題1について議論をしてきましたが、続く議題2では、新しい文化の創造について審議してほしいと、事務局の方から話がありました。議題1の議論はそちらにつながるかと思いますので、以上で議題1を締めたいと思います。

【事務局】

ただ今、広報、パブリシティ、アーツステーションちばの活用など、色々なお話をいただきました。いただいたご意見を参考に、各団体を支援し、その支援を積み重ねながら、また、アーティストの紹介やつなぐことを通じて、市と財団のアーツステーションちばにおいて、千葉市の文化のネットワーク作りに取り組んでいきたいと考えております。

【神野委員長】

続いて議題2に入りたいと思います。

【事務局】

<事務局説明>

【神野委員長】

今説明にありましたとおり、千葉市の文化をどうとらえなおすのか、どう創造するかということが、市議会でも話題になり、市においても課題として取り上げられるようになってきているとのこと。この会議においても、新しい文化の創造について、手掛かりとなるような意見交換を出来ればということですが、皆さんの中から何かご意見があれば発言をお願いいたします。

【藤田委員】

新しい文化の創造といっても、すぐには思いつきませんし、市民アンケートでも同様であったようですが、私は、現在千葉市内にある芽を育てていけばどうかと思います。私は千葉市美術館がまず思い浮

かびます。千葉市美術館には浮世絵など、多くの財産がありますので、それを組み合わせて展示をしてはどうかと思います。以前、東京国立博物館で、「対決」と云う同じ時期の同じテーマで、違う作家による作品が並べてあり、作品の違いを楽しむ展覧会がありました。そのような企画を浮世絵でやるなど、色々な企画をしていただき、ぜひ芽を育てていただきたいと思います。

また、千葉市には映画館がいくつもありますが、その中で最近千葉劇場が非常に頑張っていると思います。小さな映画館ですが、文化性・芸術性の非常に高い作品を上映しています。他館ではあまり上映していないものを上映してくれ、非常にありがたく、嬉しかったです。何か応援してあげることができれば良いのではと思います。

【神野委員長】

ただ今の藤田委員からのご意見は、既にあるものから価値のあるものを観ていくなら、まずは千葉市美術館ではないかとのことでした。千葉市美術館は最近、展覧会の評価が非常に高く、千葉市の顔として、その企画をより充実させていくというご意見でした。一方で、地味であり注目されていないかもしれないが、千葉劇場のような、非常に頑張って充実した内容の上映を続けているところに、光を当てていくことも良いのではないかというご提案でした。

【廣崎委員】

難しいテーマだと思い、色々考えたのですが、教育については、学校教育があり、社会教育のための公民館や生涯学習センターがありますが、文化芸術に関するセンターは、千葉市にないと思います。そこで、そのようなセンターができて、アーツステーションちばなどと手を組みながら、登録していただいた芸術家の方が活動できるような場所があれば、素晴らしいと思います。全体的に広報もできますし、ここに行けば芸術家が見られる、何をやっているかも分かる、という情報の発信基地ができれば、非常に良いかと思います。よく学校の空き教室がありますが、遠いことが多いので、駅に近い学校の空き教室など、利便性のあるところで、そのようなセンターが設置できればいいのではと思います。

また、千葉らしい文化ということを考えて時に、私も携わっているのですが、文化振興財団の方で、千葉をテーマにした創作狂言をやっているらしいです。来年度、千葉の羽衣という創作狂言をされるかと思いますが、それを創作狂言だけで終わらせず、例えばヴァイオリニストの方々に、クラシックコンサート的なものにしていただくなど、単に一度の公演で終わってしまうのではなく、色々な分野と組み合わせれば、楽しいのではないかと考えています。

【神野委員長】

ありがとうございました。芸術情報センター的な機能に特化したスペースがあれば非常に好ましく、人が大勢簡単に呼べる場所にあることが望ましいというご提案でした。また、ジャンルを超えた新しい表現を創る機会を提供すればいいのでは、というご提案でした。

【瀬崎委員】

今のご意見に付け足すような感じですが、千葉県は、アマチュアで楽器を弾いている方が大変多く、数を具体的に調べてデータ化したわけではないですが、恐らくオーケストラの数は日本一多い県だろう

と言われるほど、音楽に興味をお持ちの方が多くいる県だと言われています。実際に、吹奏楽部などがとても優秀な学校が多く、大変熱心な先生もたくさんいらっしゃいますが、そのかたまりだけで固執してしまっていて、県の中でも、横のつながりがないような気がします。それが私としてはとても残念です。音楽が活発な風紀があったからこそ、私も音楽を専門にしようと思いました。

アーツステーションちばのチラシの中では、ボランティア活動とプロフェッショナルでやっている方が別々に位置づけられていましたが、別々ではなく、そこに交流が図られないと文化は発展していかないので、足掛かりとなるような、つなげていただく、紹介していただく接点を、市の方で作っていただければ、とても嬉しいです。千葉市のアマチュアオーケストラを調べていただいて、お話をしてもらいたいと思います。

【石丸委員】

千葉市にアマチュアオーケストラは12団体ほどあり、現在仕掛けをしているところです。

【瀬崎委員】

例えば千葉市のアマチュアオーケストラによるコンサートを千葉県文化会館でやるなどすれば、音楽を通して、市民がより仲良くなり、色々な情報が行き交うと思います。以前、美浜文化ホールで市民の方が音楽祭を企画されましたが、その時の問題点としては、企画された方が40代であったため、ネットで宣伝すれば、多くの人が見てくれると思いましたが、実際にクラシック音楽に足を運ぶ60代以上の方々は、ネットが苦手で、チケットなどを紙で自分の手元に持っていないと、なかなか足を運びにくいという状態がありました。このように、年代によって情報に対する考え方に相違点やギャップがあり、なかなか交流が図れないときに、それぞれの世代のニーズに合わせて、方法をつなげることを模索していただければと思います。

【早川副委員長】

私は千葉市文化連盟という団体をお手伝いしています。11部門で構成されていますが、やはり縦割りで、交流がありません。4年ほど前から、少しずつ交流をしようということで、市民芸術祭の前に開幕式典というセレモニーを開催し、そこで懇親会をして交流を図っていますが、まだまだ部門間の交流は進んでいません。また、長く11部門で来ていますので、新しい分野を増やそうというのが今年のテーマです。先ほどジャズのお話がありましたが、ジャズ部門などは良いと思いますので、ジャズの各団体をまとめて、文化連盟に加えていくなど、一生懸命そういった努力をしていきたいと思っています。

また、支援や育てることも大切ですが、基本はアーティストの方々がどのように努力するかが一番重要になってくると感じます。例えば、昨年12月に、文化連盟所属の千葉市音楽協会が、千葉県文化会館で第九の発表会を行いました。これまではそれほど観客が集まらなかったのですが、今年度、音楽協会の役員が入れ替わったところ、2千人程入る会場がいっぱいになりました。それは、音楽協会の方々が色々努力をしたからこそで、市民団体が2千人も観客を集めるのはなかなか大変ですので、努力が必要だなと思いました。支援することも大事ですが、やってらっしゃる方々も頑張ることが必要で、どのようなやり方があるかを私たちは考えていかなければならないと思いました。

【瀬崎委員】

音楽活動や芸術活動を通して、千葉市の一市民として何ができるかと考えたときに、私は障害者の方々と一緒に演奏させていただくという活動をしています。全国でそのような活動を展開しているオーケストラがあり、指揮者の小林研一郎さんの奥様が千葉市の出身ということもあって、千葉の若手メンバーに声をかけていただき、千葉の方々も何人も参加しています。私はそのオーケストラのコンサートマスターとして参加させていただいています。その中でやはり、芸術は、スポーツなどのように結果がすぐに見えるわけではありませんが、生きていの中で必ず触れなくてはならない存在で、例えば、音楽を一度も聴かないで人生を終わる方はいらっしゃらないと思いますし、そういう風に芸術が当たり前にあるということが素晴らしいと思います。それほど必要不可欠なものであるということ、心豊かにゆとりを持って生きていく中で感じられる機会を、千葉市で当たり前に作っていただければいいと思います。千葉市にゆかりのある音楽家や芸術家の方は、たくさんいらっしゃいますので、そのような方々を探せば、千葉市の個性につながるような活動をしている方がたくさんいらっしゃるかと思います。

長い歴史の中で、それぞれの人間が一生をかけて、心をこめて精進していく中で、人の心を打つようなものが生まれます。私はイタリアと日本を行き来しながら勉強しており、現在、ローマに住んでいますので、特に思うのですが、その一つの仕事に打ち込めるような環境と、応援してくれる地域があって初めて、それが成り立ちます。金銭的な結果をすぐに求められる分野でないことは分かっていますが、だからこそやりがいがあると感じています。特に、現在の高齢化が進む社会の中では、人が豊かに幸せに生きるために、芸術はなくてはならないものだと思います。プロを目指す方だけでなく、市民自体がその大切さをしっかり自覚できる地域社会を発信していただければ、私も精いっぱいその仕事に携わり、千葉市を拠点として活動していきたいと強く願っています。

【神野委員長】

ありがとうございました。ヨーロッパと日本は異なります。クラシック音楽には伝統や文化的な意味や価値がありますが、日本においては、外国からやって来た良いものを知っていることが、より高い教養を持っているという感覚があり、後進国なりの文化事業をしていません。私の研究している美術でも同様です。身近な場所に音楽がある、という環境が整っていない一方で、音楽ホールや美術館が自治体毎に造られています。しかし、文化芸術への厚い愛好があるかということ、厳しい状況にあると感じています。先程の、プロとボランティアや観客との間をどのように埋めていくかが大きな課題で、その部分を千葉市がどのようにマネジメントしていくかということが、千葉市の新しい文化を形として見せていくことなのではと思います。例えば、千葉市のジュニアオーケストラが日本一ということであるならば、これは売りになるかもしれません。しかし、ジュニアオーケストラは、ベルリンフィルに対抗するようなオーケストラではありません。すると、オーケストラで楽しめる内容がおのずと変わってくるので、それをどのように行政が評価して、売り出し、市民に伝えていくか、ということが課題としてあります。オーケストラ構成であっても、クラシックに限らないと思います。例えば、知っている事例ですと、若者たちが表現する場もなく、アルバイトに追われている中、ある人物の声掛けによって、美大生たちが代々木公園に集まって何かやろうということになりました。皆が知っていることは何かと考えたところ、ドラゴンクエストが挙がり、オープニング音楽は皆そらんじて歌うことができるので、合奏をしようということになりました。皆音楽家ではありませんが、家にある楽器を持ってきて、何か月も練

習をして発表したということがありました。これもオーケストラであり、価値がないわけではありません。クラシック音楽の基準からみると価値がないかもしれませんが、多くの人が集まって一緒に何かを創っていき、それを発表し、見た人が面白いと感じる、ということで価値があります。これまでとは違い、どこに価値があるかということ、中間的領域の中でどう模索するかということが重要だと思います。私事で恐縮ですが、千葉市美術館と私の研究室で、千葉アートネットワークプロジェクトという取り組みをずっとしています。千葉市美術館1階に、プロジェクトルームという、もと売店だったスペースがありますが、こちらはポスターを貼っているという感じで、あまりうまく利用されていませんでした。千葉市美術館は展覧会事業では成功しています。しかし、観に来る人たちは、基本的には東京の人たちで、千葉の人たちはあまり観に来ないという課題があります。美術館は、レストランがあって、庭園があってと、そういうことを含めて楽しむ空間ではありますが、千葉市美術館は、展示機能のみがあり、非日常を体験するという機能が全くありません。そうすると色々な関係が育みにくく、これは文化ホールが抱える課題とも非常に似ていると思います。今年度取り組んだのが、プロジェクトルームを、美術館のアネックスとしてどのように活用するか、という課題です。展示室でやっているような芸術ではないもの、観せる側と観る側という固定的な関係ではない表現の場をどのように作れるか、ということ、まずは場所づくりから取り組んでいます。もしかしたら、文化振興財団とも連携できるのではないかという気がします。そのようなスペースをどうやって増やしていけるか、そのためには場所の提供や、最初に核を植えるなど、例えばアーティストバンクでこのようなことができる、といったことを、上手くあてはめて、何かを観せて行くことができればと思います。そのようなことをするには、文化振興課で持っている事業の予算が、あまり多くないとのことですが、今までの予算の使い方を見直すことが必要になってくるのではないかという気がします。予算を増やすことが現時点で難しいのならば、このような中間的な領域をどのようにプロモート、マネジメントしていくかという課題に合わせて支援をする、事業化する、というように、予算の大胆な組み替えも、新しい文化創造のためには必要ではないかと思えます。

【古川委員】

少し大きな話になってしまうかもしれませんが、千葉市に異動して来て、半年ほど経って、ひとつ大きく気になることがありました。私は以前、勝浦支局という観光地の支局にいたので、比較をすると、観光地でやるイベントというのは、地域外の人を呼び込むことを目的としています。そうすると、発信力や内容についても、都会の人が喜んでくれるようなものを目指し、徹底して外から人を呼んでくるものを作ります。千葉市のイベントを色々観てきましたが、全て、千葉市民向けのもののように感じます。これが良いことか悪いことかは分かりませんが、千葉市の中で全て完結してしまうものばかりと感じます。それで十分という判断をされているということかもしれませんが、市の職員の方や、委員の方にとっても、意外とそこが盲点かなと思います。やるのも市民、来るのも市民で、それでたくさん集まっているので成り立っている、というのが千葉市のイベントのような気がします。ゆえに、色々なイベントがたくさんありますが、それぞれが縦割りになっているように感じます。それが問題にならないのは、それなりに人数も来て、成り立っており、内容もそれなりに充実したものができているからだだと思います。しかし、もしもイベントを千葉市外の人に観てもらおうためのものにしようと思うなら、このままでは問題があると感じます。もっと横の連携を取りながら、広報や他の運営など、色々なところでグレー

ドアップしなくてはならないと思います。そこを少し考える時期なのかなと、私は半年間観てきて実感しました。それをやることにより、千葉市としてどこに重点を置くか、どのような種類の文化に重点を置くか、ということが見えてくる気がします。現状のままですと、ひとつひとつのイベントの中身は濃くなっていくかと思いますが、壁は破れないのではと思います。例えば、横浜ですと、東京の人間にとっても憧れがあり、ちょっと行ってみようか、ということがあるかと思いますが、残念ながら、東京から大学生が千葉に遊びに来る、ということはあまりないように思います。そのような、外から人を呼べる街を創っていくためには、そろそろ、内向きだけでなく、外向きのことを考える時期に来ているのかな、という気がします。

【神野委員長】

ありがとうございます。市民向けのイベントが主体であって、千葉市自体を発信するような、外から人を呼べるようなという意識が乏しいのではないかというご指摘でした。

【早川副委員長】

私は安房鴨川の出身ですが、安房鴨川でイベントをやるときには、どれだけ外の人を引っ張りこんでお金を落としてもらうか、ということを中心に考えます。同じイベントをやるにしても、少し違うのかなと感じます。そのような目的であれば、経済担当の部署が主催するのだと思います。文化担当の部署がやる場合、目的が全く違いますので、私はこの会議の行き着くところ、狙っているところは、千葉市民の文化芸術水準を引き上げることを考えればいいのではと思います。その結果、外から人が来るのなら、それはウェルカムだけれども、そこにポイントを置くのではなく、千葉市民の文化芸術水準をどう引き上げるかという観点で議論する方がいいのではないかと思います。

【古川委員】

全てその通りで、その上で、外から人を呼び込むことで、さらに文化水準アップにつながるのではないかと思います。

【神野委員長】

ただ今の議論についてですが、経済的な側面として、文化事業が地域にとって求められている場合があります。例えば、瀬戸内や越後妻有といった過疎地域では、お金を落としてくれる、という側面で、国際芸術祭をやっています。一方で、そのようなイベントをやっていく中で、地域の交流人口が増えていくとか、そこに移住する人たちが増えてきて、地域の文化的な質が上がるという側面も評価されています。完全に真二つに切れるというものでもないと思います。千葉市はクリエイティブシティということをやっているわけではないので、横浜市とは同じではありませんが、横浜市のように、文化的な基盤があって、そこに住むことを選んでいただく、という場合は、文化と経済振興が一体化して、文化施策を進めることになるかと思います。一方、千葉市の今の位置付けとしては、あまりそのような意識がないと思います。横浜市では、市長が変わった途端、それまでやっていたことをやめたり、市民レベルとしては、実はあまり足を運んでいないということも聞いたりしており、私も必ずしも横浜市が成功しているとは思っていないですが、確かに、横浜市のイメージが良いということには寄与していると思います。私自身

は、千葉市はそのようにイメージ的に素敵などころを目指すよりは、もっと等身大の生活ベースでの充実ということを重視すべきではないかなと考えています。先ほど瀬崎委員のお話にあったように、ある種高級な文化があって、その途中の階層をどうすれば分厚くできるかということが、千葉の文化にとって重要になってきており、それを外に向けて発信するということができるような気がします。経済振興と文化は、完全に一致するわけではありませんが、完全に切れているというわけでもないと思います。

【事務局】

プロとアマチュアとの間をどのように埋めていくか検討するべき、中間の領域を行政が支援していくべきというご意見について、今年度、文化振興財団の方で、プロとアマチュアのイベントとして、市民文化祭という取り組みをしています。財団の方で内容についてご紹介いただければと思います。

また、ストリートミュージシャンの支援もある種の見える化につながるのではないかというお話がありました。こちらも、財団の方で、ちばまちなかステージというアマチュアバンドが出ている事業をご紹介いただければと思います。

【石丸委員】

先ほど藤田委員から、見えるところで何かパフォーマンスをというご意見をいただきました。私どもはホールの管理からスタートしたので、どうしてもホールの中で何か事業をやるということが多かったのですが、これからはどんどん外に出ていこうということで、今年度から、ちばまちなかステージという事業を始めました。今年度は6区で1回ずつ開催し、例えば中央公園や夏祭り会場の中で、場所を提供していただいて、アマチュアミュージシャンに発表の場を提供してきました。それから、モノレール千葉駅の2階の広場を使って、毎週日曜日に、アマチュアの方々のステージを開催しており、あそこに行けば何かやっているね、ということが段々広がりつつあると思います。さらに、来年度もまちなかステージとして、アマチュアミュージシャンの発表の場を確保したいと考えています。先ほど瀬崎委員から、オーケストラのフェスティバルをやったらどうかという提案もいただきましたが、近いうちに、会合を出来ないかと思い、直接オーケストラの方々と連携していきたいと考えています。市民文化祭というのは、アーツステーションちばの中の事業ですが、まさに市民ボランティアの方々にも協力していただき、自分たちで舞台の構成をしたり、実際に舞台の裏方をしたり、チラシ作りに参加したりという形で、底辺を支えるボランティアとして参加していただいています。さらに、出演の方もアマチュアの方々にしていただきました。アーティストバンクはこれまでプロの方のみでしたが、この1月から、アマチュアアーティストバンクというのを募集開始しました。病院や介護施設、幼稚園、保育所など、どこでも行ってもらえるような方の登録をし、超一流のプロではないですが、趣味の延長で、演奏などができる方を求めている方がいれば、出向いていただくという橋渡しをこれから進めていきたいと考えています。こちらでアイデアをいただきながら、色々な仕掛けを積極的に進めていきたいと考えております。

【瀬崎委員】

最近電車に乗っていると、千葉も外国人の方がたくさん増えてきたなという印象がありますが、千葉市にもたくさん海外からいらしている方々、暮らしている方、子育てをしている方がいると思いますので、外国人との交流を図るために、また、同じマンションに住んでいても顔も見合わせず、挨拶もしな

いようになりつつある中で、安全な地域にするためにも、文化というのはとても役に立つと思います。外国人の方と簡単に集えるような会をアイデアとして出していただくとか、例えば料理や音楽など、日本の文化と外国の文化を気軽に交流しあえるような場を千葉市で作っていくことができれば、クラシックが好きな人を広げていくだけではなく、住み良いまちにするために、現実的にとても役に立つのではないかなと思います。

【石丸委員】

千葉市国際交流協会と廣崎委員のNPOフォーエヴァーが、外国人留学生に落語を聴かせる活動などを、どんどんされているところです。そういう活動が口コミなどで広がっていくことが大事なのかなと思います。

【瀬崎委員】

外国人の側からは、そういった情報が欲しいなとリサーチすると思うのですが、そうではなくて、普通に学校に行っている子どもたちが、外国人と触れ合う機会を地域で身近に作れる環境が、千葉市であれば可能だと思うので、それが現実的にもっとあればいいなと思います。

【廣崎委員】

一市民として質問ですが、市民文化ボランティアの活動を詳しく教えていただければと思います。この方たちは、イベント企画ができると書いてありますが、アーティストバンクの方々をコーディネートすることなどもできるのでしょうか。

【石丸委員】

今現在はそこまでは行っておりません。我々財団のスタッフと一緒に作りあげるという段階で、我々の手を離れて出来るという段階までは至っていません。

【廣崎委員】

私はNPOの活動を通して、生涯学習ボランティアに登録しています。やはり、ボランティアのボランティアを活用したいというイメージがとてもあり、一時期、それをやろうと思いましたが、そこまでは生涯学習センターとして、許可は出せないという問題があり、歯がゆい思いをしたことがあります。市民としては、そこまで活用できることが広がれば、もっと色々なアーティストの方を色々ところで広めることができると思うので、ご検討いただければと思います。

【石丸委員】

頑張ります。

【神野委員長】

ありがとうございました。色々な登場人物がありうるのですが、これまでそれをつなぐ機能があまりなく、文化振興財団も一生懸命その辺りをやろうと思っているのですが、財団がつながっているのは、

非常に固定客的な層になってくると思います。それをどのように乗り越えていくか、これは財団だけではなかなか難しい問題なので、市が音頭を取ることが必要だと思います。例えば、色々な文化芸術に関心がある方々、あるいは実際にやっている実演家、イベントを主催するNPO、私のような大学の研究室など、色々な方が一堂に会して交流ができるような場づくりをやってみるといいのではないかと思います。そうすると、登場人物の顔が見えてきて、思いもよらない連携が可能になるのではないかと思います。瀬崎委員のいらっしゃるローマの人々は、とてもパーティーが好きで、日本ではパーティーというと、お酒を飲んで終わってしまうのですが、ローマでは基本的に情報交換の場となっています。知らない人、つながっていない人であったのが、知人の知人であって、そこでつながり、思いもかけないこと、例えば演奏のチャンスが生まれるなど、そのような場所や機会を作ればいいのではないかという気がします。もちろん私もそのような場所作りに協力しますし、文化振興財団や委員の皆さんも協力してくれると思いますので、ぜひ実現していただきたいと思います。

【菱田委員】

アーティストバンクは私も必要だと思います。

千葉市の文化と言って、私も全く思い浮かぶものがなく、千葉城の侍や落花生などしか浮かばず、とても寂しかったです。教育現場で子どもたちが芸術家に触れ合う機会がもっとあればありがたいと思います。例えば小学校にヴァイオリンを弾く人が来てくれるような機会があると、そこから子どもたちも興味を持つし、耳から入ってくる音楽を聴くことで、子どもたちの中に文化芸術が少しずつ芽生えてくれば良いと思います。アーティストの方々が、どうして音楽家やカメラマンになったかという話をしてくれれば、子どもたちもすごく喜ぶと思います。そのような働きかけを積極的にしていけば、そこから芽が出て、将来文化や芸術家が千葉市にも生まれてくると思います。

【神野委員長】

教育現場も含めたつながりの中で、文化の厚みを充実させていくというご意見でした。これも、中間をどう充実させていくかという話のひとつだと思います。

【田代委員】

私も千葉らしい文化ということで色々考えて、若い職員などにも色々聞きました。これだというものはありませんでしたが、幕張で開催されるサマーソニックというコンサートなどは、全国の若い人たちが押し寄せて、すごいコンサートらしいです。幕張では、こういった人気アーティストのコンサートがたくさんやっているということを聞きました。千葉らしいということを聞いて、千葉には海があり、メッセのような国際展示場があり、ハコはあると思います。中心市街地を観ると、千葉駅があって、駅前にクリスタルドームというドームがあって、それもハコと考えたら、千葉らしいハコがあるが、それを利用しているソフトの方が、もう少し力不足なのかなと思います。藤田委員がおっしゃったように、ストリートミュージシャンなど、駅前で活動している方がいるのですが、もう少し何か仕掛けや支援をすると、上手くいくのではないかと思います。雨が降ってもできるようなストリートはなかなかありませんが、千葉市にはあると思います。また、駅前の地下通路も、女性などは怖くて歩けないと言われていますが、本当は駅前でとても良い場所で、上手く活用すると千葉らしいものになるのかなと思います。音楽に限

らず、絵や写真を飾るなど、何か利用方法を考えると、宝物になると感じます。千葉らしいというのは、そのようなソフトの面を上手く育てていければいいのではと思いました。

【神野委員長】

ここはこういう場所だというレッテルをはずすと、実は色々な展開ができる場所があり、それをどう拾って実現するか、ということも可能性の一つであるということですね。

【藤田委員】

私はクラシックが好きで、色々と聴きに行っているのですが、千葉市は東京という大都市の近くにある地方都市というイメージになってしまっていて、東京に来た海外の演奏家は、主に千葉を通り道として、成田から帰国します。ぜひもう一泊千葉に滞在していただき、千葉市内にある立派なホールで、演奏をしてもらえないかという希望があります。

また、千葉市に市外からたくさんの方に来てもらうということが大事ではないかと思います。千葉市民だけの盛り上がりだけでなく、市外から来てもらって、市内で消費してもらうような経済効果も大事ではないかと思います。クラシックでいえば、武蔵野市が非常に色々な企画をしています。ぜひ一流の演奏家のコンサートを千葉市でも安価でやっていただければ嬉しいです。文化振興の目的の一つは、やはり景気につながるがあるかと思っています。お金を使っていたら、市の財政も豊かになって行けばいいのではと思います。少子高齢化も進んでおり、千葉市内でこれからの10年間で70歳以上の高齢者の人口が倍になると言うデータもあります。これは日本一の増加だそうです。高齢者はモノをあまり買わず、お金を使わない傾向があります。しかし、文化、食、旅行などには使っている現実があります。文化の面での価値を認めれば、例えば高価なオペラなどにも高齢者が多く来場し、お金を惜しげなく使います。市としてはどうすればお金を使ってもらい景気に寄与するか、ということも考えていただきたいと思っています。

【神野委員長】

基本的に文化事業とは儲からないものだと思います。千葉市美術館に多くの人が入っても、絶対に黒字にはなりません。これはしょうがないことで、コストを入館者の負担として割ってしまうと、普通では入れない金額になってしまいます。そうすると、赤字の部分がどのような価値を持つかを、積極的に評価していかなくてはいけないと思います。日本の文化行政では、クラシック音楽があってホールがあって演奏家がいる、美術館があって美術家もいる、ということで、その部分があまり問われずにきたのだと思います。現在はそれでは通らないので、どのような意味があるのかということ、きちんと市民が実感できるようなかたちで伝えていかなくてはいけない、コンセンサスを得ていかなくてはいけない時代なのだと思います。そうすると、良い演奏が聴けることはとても大事だと思いますが、それに価値があるということ、これを認めていない人たちが多くいる状況をどのように改善していくかという問題も同時に引き受けていかなくてはいけないので、簡単な問題ではないと思いますが、千葉市は身の丈に合ったところから、少しずつ課題を解決していくしかないのかなと思います。委員の皆様方の積極的な発言は非常にありがたいですが、簡単には解決しませんので、とりあえずは今日はここまでということにさせていただきます。かなり具体的な投げかけもあり、市に対して大きな期待があるということでは

ので、ぜひ施策の方に活かしていただければと思います。

最後に関委員からのメッセージを紹介します。やはり関委員も「難しいですね」とおっしゃっています。「千葉らしさと言った瞬間に嘘っぽくなってしまいます。子供たちが楽しめる街を、行政や大学など、色々な所が連携して探して良ければいいかなと思います」というメッセージでした。今日の議論と重なる部分も多くあったかと思います。それでは、本日の二つめの議題を終わりにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

これで議事は終了となります。どうもありがとうございました。